

第4章 語源で納得! — 単語の語感 / 多義語の語感

語源を知ることが、どのように英語力アップにつながるのか、という話に戻りましょう。

英語はギリシア語、ラテン語、古ノルド語、フランス語など、さまざまな言語から単語を借りてきているので、同じ意味を表す言葉がいくつもあります。それぞれの単語は、異なる香り、つまり「語感」を持っています。

語感とはその単語の持つ雰囲気、香りです。単語の持つ雰囲気は、その単語を「使う場面」を決めます。その場にふさわしい語感を持つ単語を選んで使うと、英語が伝わりやすくなります。具体的に見てみましょう。

(1) 「仕事」の単語は?

第1章で、「その仕事は朝めし前だ」という日本語の英訳について考えました。このときにはThe work is very easy. と、「仕事」の意味になる英単語にworkを使いました。

けれども、「仕事」を表す英単語はworkだけではありません。**work**は、一般的に仕事を表す名詞で、不可算名詞です。「仕事」を表す単語には、workの他にもtaskなどさまざまあります。先ほどの文をtaskを使って書き換えてみましょう。

The task is easy. (この仕事は簡単だ)

この文を見て、workを使った場合に比べて「やらなければ」というプレッシャーが強く感じられれば、taskの語感がわかっている証拠です。

taskには「なされるべき、しなければならない仕事」といった語感が含まれます。辞書の編者も、このような語感を意識して辞書をつくっています。

ですから、たとえば手元の『ジーニアス英和大辞典』(大修館書店)には、taskの訳語として次のような意味が出ています。

「(一定期間に義務としてやるべき) 仕事、課業；(つらくて骨の折れる) 任務；職務」

この単語はラテン語tasca(領主から課せられる税金または労働)からきているのですが、注目すべきは**tax(税金)**と仲間だということです。本書で強調してきた語源感覚で言えば、taskの中にはtaxが隠れているのです。確かにtaskには「義務」の香りがしますね。

「仕事」を表す英語の単語には他に、**job**、**occupation**、**calling**、**vocation**などがあります。また、**line**という単語も「仕事」の意味で使われることがあります。

でも、日本語で「仕事」という言葉で表される場面に、どの単語をあてはめてもいい、というわけではありません。違いは次のようなものです。

- **job**: 「賃仕事」と訳すこともあります。お金を得るための仕事です。語源不祥の単語です。「かたまり」を表すgobと同語源で、「飲み込む」の意味とも関連があると言われています。